

Sen, 10/600,509

公開実用 昭和 59 — 61662

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑪ 公開実用新案公報 (U)

昭59—61662

Int. Cl.³
H 04 N 1/02
B 65 H 17/20

識別記号

庁内整理番号
7334—5C
6869—3F

公開 昭和59年(1984)4月23日

審査請求 未請求

(全 頁)

⑫ 原稿送り機構

東京都港区芝五丁目33番1号日

本電気株式会社内

⑬ 実 願 昭57—155847

⑭ 出 願 人 日本電気株式会社

⑮ 出 願 昭57(1982)10月15日

東京都港区芝5丁目33番1号

⑯ 考 案 者 高橋勝男

⑰ 代 理 人 弁理士 内原晋

明 細 書

1. 考案の名称

原稿送り機構

2. 実用新案登録請求の範囲

少くとも原稿の主走査方向の幅と同等の幅をもつ送りローラと、該送りローラの外周の一部に圧接して張設する可撓性の透明ベルトと、前記送りローラと該透明ベルトとの圧接部において前記原稿の主走査読み取りを行う読取走査部とを含むことを特徴とする原稿送り機構。

5

10

3. 考案の詳細な説明

本考案は原稿送り機構、特にファクシミリ装置における原稿送り機構に関する。

従来のファクシミリ装置における原稿送り機構は、少くとも原稿の主走査方向の幅と同等の幅をもつ送りローラと、該送りローラに圧接する押えローラとがあり、送りローラを原稿の送り方向に

15

- 1 -

実開59-61662



505

回転し両ローラの間で原稿を挿入挾持して搬送している。

押えローラは主走査を妨げぬよう原稿走査部を避けた位置に設けられるため、原稿走査部において原稿が送りローラから浮上らないよう、原稿走査部の周辺の送りローラに沿って案内板が設けられる。

案内板と送りローラとの間隔が広いと原稿の浮きを生じ記録画質を劣化させる。また、案内板と送りローラとの間隔が狭いと、案内板の原稿走査部に設けられた細窓の縁部に原稿の先端が当り紙づまりなどの原稿送り障害を発生する。

1

すなわち、従来の原稿送り機構は送りローラと案内板との間隔によって、原稿の浮きを生じたり紙づまりを発生するという欠点がある。

1

本考案の目的は、送りローラの外周の一部に圧接する透明ベルトで原稿を送りローラに圧接しながら搬送することによって、原稿の浮上りを防止しかつ紙づまりの発生しない原稿送り機構を提供することにある。

2

本考案の原稿送り機構は、少くとも原稿の主走査方向の幅と同等の幅をもつ送りローラと、該送りローラの外周の一部に圧接して張設される可撓性の透明ベルトと、前記送りローラと該透明ベルトとの圧接部において前記原稿の主走査読み取りを行う読取走査部とを含んで構成される。

5

以下に、本考案の実施例について図面を参照して詳細に説明する。

第1図は本考案の一実施例を示す要部側面図で第1図に示す原稿送り機構は送りローラ1と、透明ベルト2と、読取走査部3とを含んで構成される。

10

第1図において、送りローラ1は原稿4の主走査方向の幅と同等以上の幅をもち、図示しない駆動機構によって矢印の方向Aに回転する。

15

透明ベルト2は例えば酢酸セルローズフィルムまたはプラスチックシートのような合成樹脂系の可撓性のシートで原稿4との滑り摩擦係数を小さくするよう、原稿4との接触面を平滑に仕上げてある。

20

透明ベルト 2 は一端が軸 2 1 に支持され他端はスプリング 2 2 を介して軸 2 3 に掛止されて、原稿走査点 X を含む送りローラ 1 の外周の一部にスプリング 2 2 の張力によって圧接している。

なお、ローラ 2 4 およびローラ 2 5 は透明ベルト 2 を小さいスペースに実装するためのものである。

5

読取走査部 3 は光源 3 1 , レンズ 3 2 および光電変換素子 3 3 を備え、原稿 4 を原稿走査点 X を通り紙面に対し直角方向の線分上にある主走査線に沿って読み取り走査する。

10

かかる構成をもって、原稿載せ台 5 から原稿 4 を送りローラ 1 と透明ベルト 2 との間に挿入すると、原稿 4 は送りローラ 1 の回転に応じて透明ベルト 2 の表面を滑って矢印の方向 B に繰出される。

15

従って、原稿 4 は透明ベルト 2 で送りローラ 1 に圧接されるので送りローラ 1 から浮上ることはなく、かつ原稿の搬送が妨げられることが無いので紙づまりが発生しない。

ここで、透明ベルト 2 の厚みに起因する画像ぼ

20

けは、読取走査部 3 の光軸 L が送りローラ 1 の中心を通り透明ベルト 2 にはほぼ直角に交わる直線上にあるので実用上無視できる。

以上説明したとおり、本実施例では透明ベルトをシート状としたが、複数本の短冊状にしたものでもよい。

以上述べたように、本考案の原稿送り機構は送りローラと送りローラの外周の一部に圧接して張設される透明ベルトとの間に原稿を挟んで原稿を搬送することにより、原稿を送りローラに圧接しながら搬送できるので原稿の浮上がりを防止しかつ紙づまりの発生しない紙送り構造を実現することができるという効果がある。

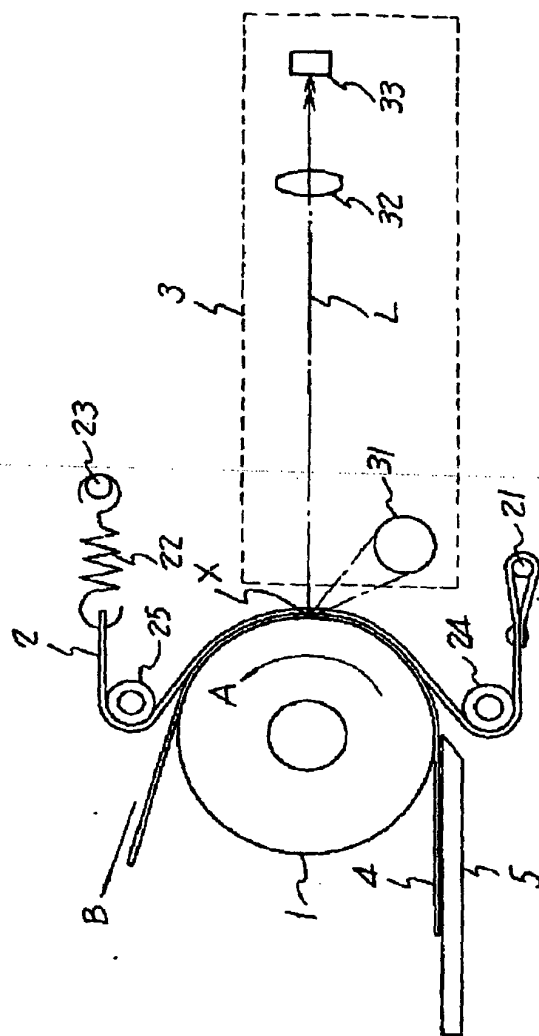
4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本考案の一実施例を示す要部側面図である。

図において、1 ……送りローラ、2 ……透明ベルト、3 ……原稿走査部、4 ……原稿。

代理人 弁理士 内 原 晋





第 1 図



代理人 永野士 内原 昭